

CORPORATE PROFILE

あらゆるステークホルダーに耳を傾け、
従業員一人ひとりの力で未来をつくる

日野自動車は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という使命に基づき、1942年の設立以来、トラック・バスを通じてお客様と社会に価値を提供してきました。



近年、日野は大きな課題に直面してきました。お客様を支え、信頼を取り戻し、事業の基盤を強化するため、日野グループ全体で示してきた粘り強さと強い意志に私は深く感謝しています。日野に寄せられる信頼は、従業員一人ひとりの着実な仕事によって日々築かれています。

信頼できる高品質な商用車やソリューションを通じて社会を支えるという目的は変わりませんが、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。カーボンニュートラル、デジタル化、新技術、そして変化するお客様の期待が、業界を大きく変えつつあります。同時に、コンプライアンスをはじめ、企業としての誠実さや透明性はこれまで以上に重要になっています。

こうした状況の中で三菱ふそうと経営統合しARCHIONの一員となることは、日野の未来にとって重要な一歩です。ARCHIONは、互いの強みを持ち寄って競争力を高め、商用車業界全体で長期的な価値創造を可能にする枠組みです。これは、日野らしさや強みを大切にしながらも、開発効率を高め、グローバルにおける日野の存在感を強化する基盤づくりが出来るようになるということです。日野らしさがなくなるのではなく、仲間と手を取り合い真摯に進んでいくことで一層強くなっていくチャンスなのです。

これから私たちは、次の5つの柱を軸に歩みを進めます。

- 健全なガバナンスとコンプライアンス:透明性と規律、法令、倫理を遵守し、信頼の再構築と維持に取り組みます。
- 人を尊重し、チームワークを大切にすること:協働と継続的な改善を通じ、全ての従業員が尊重され、助け合い、貢献できる職場環境をつくれます。
- 信頼できる製品・サービス:安全・品質・耐久性への揺るぎない取り組みのもと、お客様が信頼できる車両とソリューションを提供します。
- お客様価値の向上:データ、コネクティビティ、サービスを活用し、車両の稼働率向上とコスト削減に貢献します。
- カーボンニュートラルの進展:地域ごとのニーズに合わせ、マルチパスウェイによる現実的なソリューションを提供していきます。

戦略だけでは成果は生まれません。誠実さとプロフェッショナリズムをもって、一人ひとりが役割を果たすことが成功に繋がるのです。代表取締役社長CEOとして、私はお客様をはじめステークホルダーの皆様、そして従業員の声に耳を傾けること、そして誰もが率直に意見を共有できる環境づくりを大切にします。

そして、相互尊重と継続的な改善を基盤として誰もが最高のパフォーマンスを発揮できる職場づくりを進め、お客様の成功のために心をひとつに一丸となって取り組むことが、最終的には私たち自身の成功にもつながると考えています。

変化には、忍耐と粘り強さが必要です。過去から学び、謙虚さを忘れず、共通の目的意識のもとで力を合わせることで、日野は社会における役割を果たし続け、持続的に成長し続けることができると私は確信しています。未来は与えられるものではありません。私たち自身の手で創り出すものです。

今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

日野自動車株式会社 代表取締役社長 CEO

サティヤカーム・アーリヤ



トラック・バスの 安全・環境技術を追求

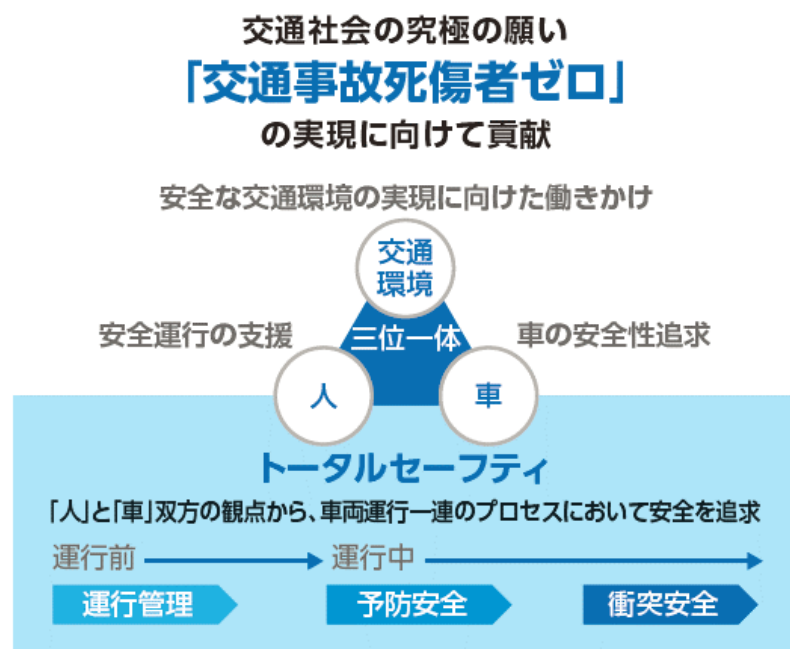
PCS*(Pre-Crash Safety / 衝突被害軽減ブレーキ)

ミリ波レーダーと画像センサーにより前方の車両や歩行者を検知し、自動でブレーキを作動させて衝突被害を軽減するシステム。日野は、トラックの全車種と大型観光バスに標準で装備しています。

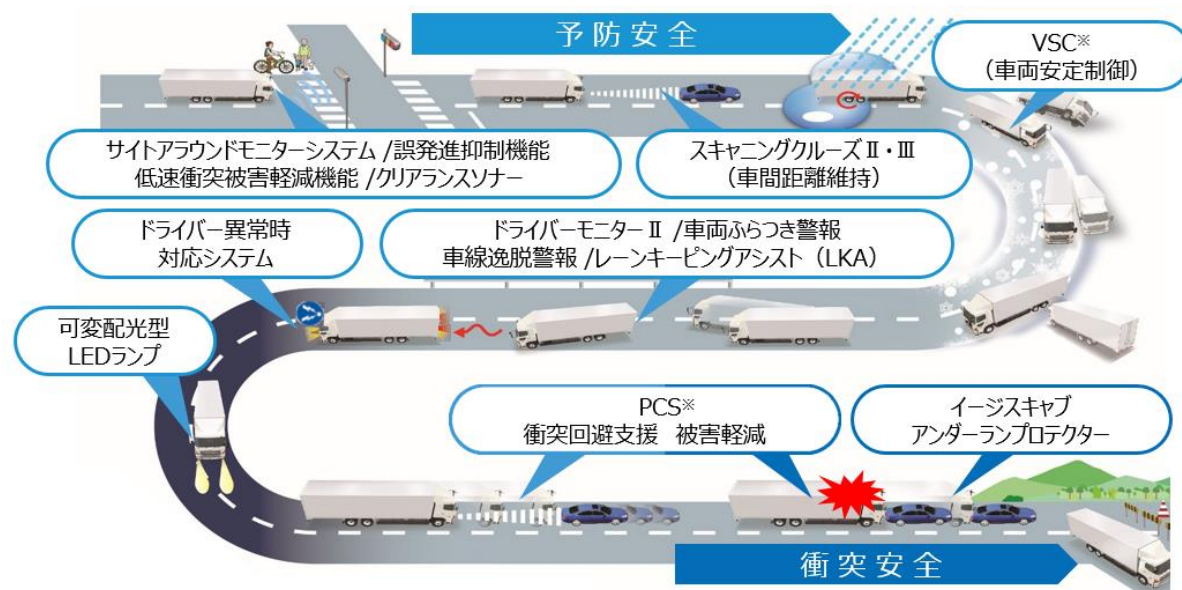
*“PCS”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

「交通事故死傷者ゼロ」のために

「トラック・バスの交通事故死傷者ゼロ」の安全な社会の実現に向けて、日野は、多様な側面から安全性向上に努めています。「トータルセーフティ」の考えのもと、安全運転のための運行管理から、事故を起こさないための予防安全、もしもの時の衝突安全まで、それぞれの段階において安全性を高めるための取り組みを進めています。また、開発した安全技術を広く普及させることも重要と考え、実用化した技術をいち早く商品に搭載するとともに標準装備化を進めています。



すべての道路利用者を念頭に置き、あらゆる場面での安全技術を開発



※“PCS” “VSC”はトヨタ自動車(株)の登録商標です

日野は、人、物の移動による環境負荷の少ない社会を目指し、1991年に世界初のハイブリッド市販車となる大型路線ハイブリッドバスを発売するなどの技術革新を進めてきました。

製造から廃棄までの車両ライフサイクル全体における、CO₂排出量の削減に取り組み、その大部分を占める車両使用時のCO₂排出量削減に向けて、電気自動車(BEV)・燃料電池車(FCEV)などの電動車開発をグローバルで加速していくことで、技術開発を通じて社会・お客様にとって持続可能な選択肢を追求してまいります。

- 大型燃料電池トラック「日野プロフィア Z FCV」
(トヨタと共同で開発)
- 小型BEVトラック「日野デュトロ Z EV」
- BEVフルフラット路線バス「日野ブルーリボン Z EV」



お客様のビジネスを支える 「トータルサポート」



故障車への応急処置を行う「ドクターデウトロ」は24時間体制でサポート

日野は、お客様のもとでトラック・バスがしっかりと働き続け、その役割を全うできるようにきめ細かく支える「トータルサポート」を重視しています。お客様の仕事を止めないことが、社会のインフラである輸送・交通を支えることにつながり、日野が社会に提供できる重要な価値になると考えています。

適切な時期の部品交換などにより、故障を未然に防ぐ予防整備、万一の際の緊急対応や迅速な修理、より安全でエコな運行のためのサポートなど、あらゆる面においてお客様のビジネスに貢献していきます。



お客様と日野をつなぐコミュニケーションツール「HINO-CONNECT」は、車両に搭載した通信端末を通じて、トラック・バスの正常な稼働を支えるためのサービスです。お客様専用のウェブサイトや各種通知機能を備え、万一のトラブル発生時にも適切・迅速に対応します。また、省燃費運転や安全運転のガイドとして活用いただけるレポートも提供しています。収集された車両情報を予防整備の提案に活かすなど、日常の運行から緊急時の対応まで、幅広くお客様の車両をサポートしています。



小型BEVトラック



スムーズに乗り換えができるバスターミナル

人流・物流課題の解決

自動運転による隊列走行



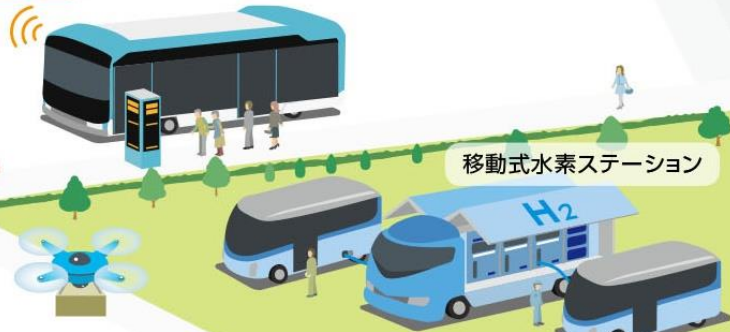
スマホで呼べるオンデマンドバス



水素で走る路線バス



移動式水素ステーション



荷物と車を集中管理する配送センター



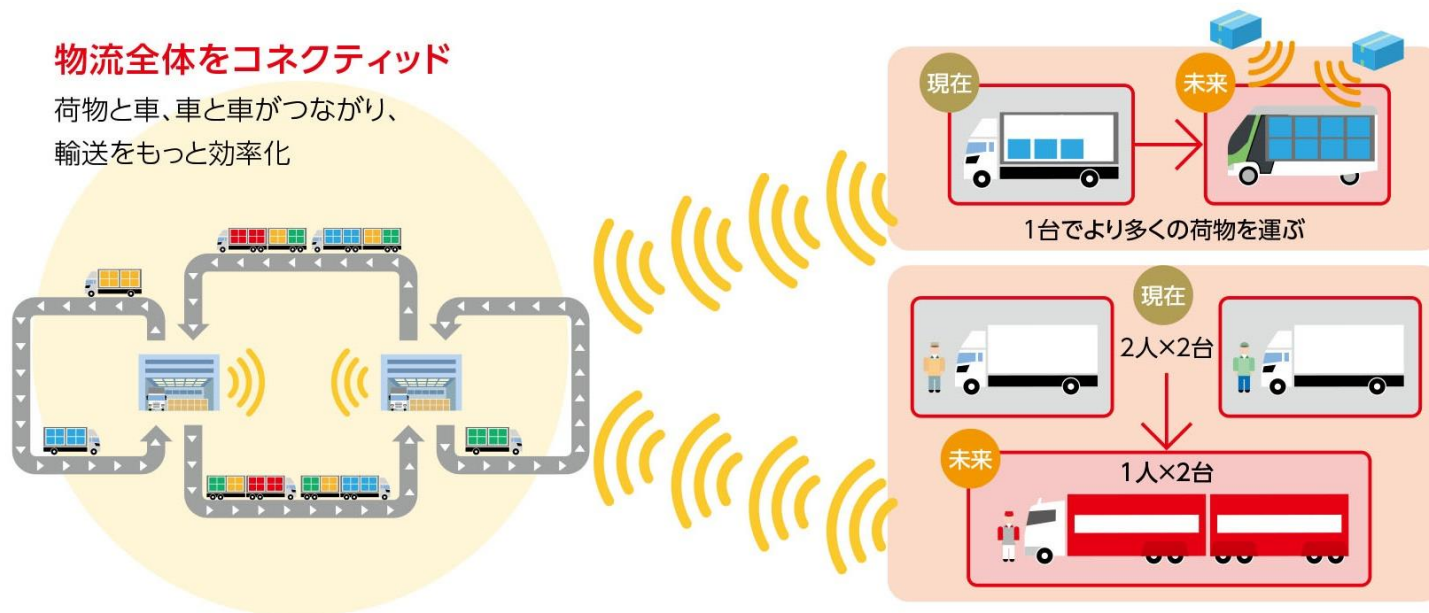
商用車を取り巻くニーズは多様化しています。

車の稼働率向上や物流の効率化、高齢化やeコマースの拡大によるドライバー不足、移動手段が不足する過疎地の問題など、車だけでなく物流や交通システム全体の課題に及んでいます。

日野は、物流や交通の未来像を見据えた新たなチャレンジによって、これらのニーズや課題に応え、もっと、豊かで住みよい世界と未来に貢献していきたいと考えています。

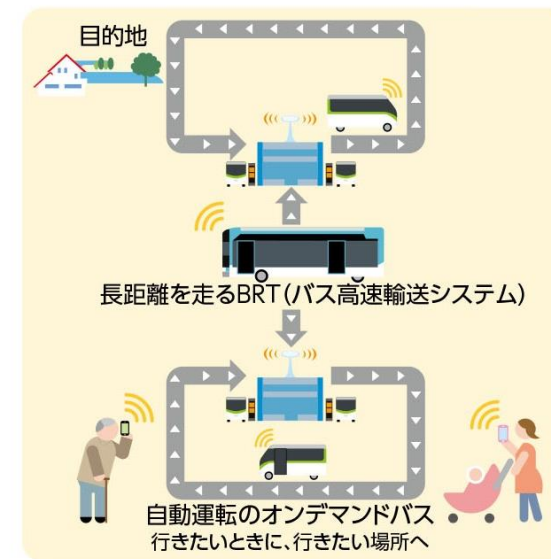
物流全体をコネクティッド

荷物と車、車と車がつながり、
輸送をもっと効率化



交通システムをコネクティッド

人と車がつながり、移動をもっと便利に



日野の「ものづくり」と「品質」

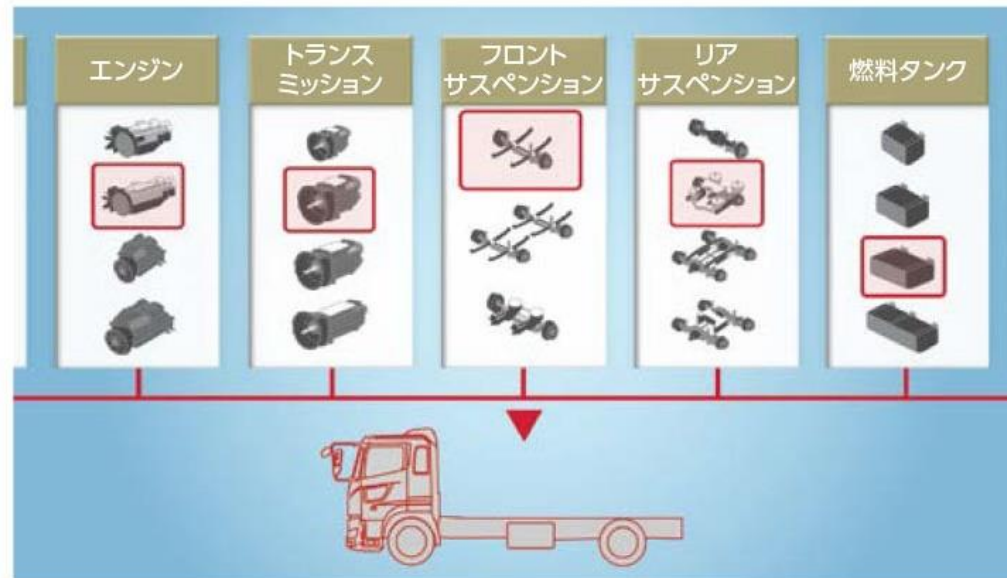


大中型車両生産のマザー工場となる、2017年に本格稼働した茨城県の古河工場

「モジュール化」でより早くニーズに対応

商用車は用途によって多種多様な車両の形態があり、お客様のニーズにきめ細かく対応した多品種のラインナップが求められます。日野は、さまざまなニーズに合った商品を、世界中のお客様へより早くお届けするために、車両を構成する部品＝モジュールをニーズに応じて組み合わせて1台のトラックをつくりあげる、「モジュール化」という考え方を取り入れています。

さらに、各モジュールの「コア」と呼ばれる共通部分である基幹部品を日本で集中的に生産し、各市場のニーズに応じた周辺の部品を海外で組み付けることで、いち早くお客様にお届けしています。



部品をニーズに応じて組み合わせる「モジュール化」

国内生産の中心となるのは、2017年に本格稼働した古河工場です。

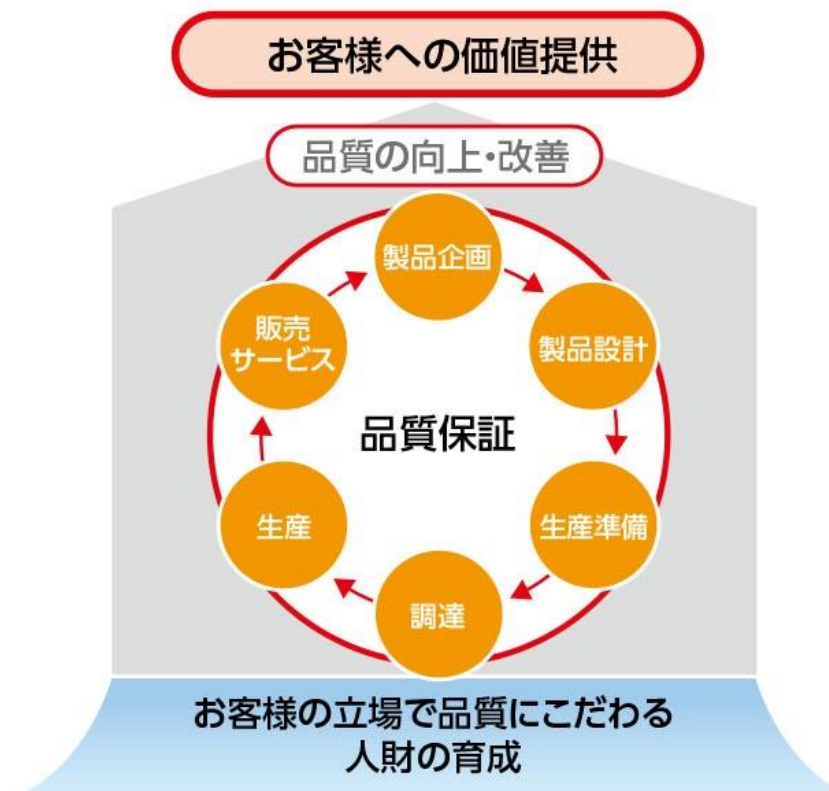
古河工場は、「多品種少量である商用車を短いリードタイムで生産する」という日野の目指すものづくりを具現化するため、革新的な生産技術・生産ラインを積極的に導入し、量と種類の変動に対応したフレキシブルな生産体制を構築しています。大中型車両生産のマザー工場として、新技術や新工法を導入し、海外の車両工場に展開していく役割も担っていきます。



大中型トラック生産のマザー工場「古河工場」

日野は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」ことを使命とし、お客様や社会に「安心・安全」と感じていただける、価値や品質を提供することが責任であると考えています。

お客様と社会から信頼いただけるトラック・バスメーカーであり続けるために、「安心・安全」の製品を提供できるよう製品の企画・設計、生産準備、調達、生産、販売・アフターサービスのすべてのプロセスにおいて、相互連携を図っています。また、さらなる業務改善のためにPDCAのサイクルを回し続け、品質の向上を図ることを品質保証マネジメントの基本としています。



グローバルに展開する「HINO」



北米向け中型トラック(ボンネットタイプ)「HINO600シリーズ」

90を超える国・地域で活躍する「HINO」車



日野は、東南アジアやオセアニアでもトップのシェアを争うほか、北米や中南米などの市場における事業も着実に成長させています。現地で組み立てるCKD生産を主とする一方、各国・地域に根ざした製造を目指して、部品の現地調達など生産の現地化を進めています。また、北米市場向けのボンネット型トラックや、鉱山などで使用される最大積載量35トンの重量物運搬専用トラックなど、世界各国・地域の多様なニーズに応える海外専用モデルを投入しています。「HINO」ブランド車は、日本ならではの「ものづくり」と、お客様のニーズにきめ細かく応える対応力で、世界中で高い評価を得ています。

- 世界中に広がるHINOの海外拠点とディストリビューター



- 重量物運搬用トラック「HINO700シリーズ ZS」



「トータルサポート」を世界中で強化

世界中で「HINO」の車が役割を十分に果たせるように、日野は各地に充実したサポート体制を構築して、日々お客様からのご要望やご相談にお応えしています。質の高い「トータルサポート」は「HINO」ブランドの強みであり、世界中のお客様からご支持をいただいています。

より一層「トータルサポート」の充実を図るため、マレーシアにお客様向け試乗・講習施設「Hino Total Support Customer Center」を開設、アラブ首長国連邦に中近東研修センターおよび中東部品デポを設置、パナマに中南米サービス支援拠点を設置するなど、世界中で着実に体制を整えています。



アラブ首長国連邦の中東部品デポ

パナマの中南米サービス支援拠点



マレーシアのお客様向け試乗・講習施設
「Hino Total Support Customer Center」



アラブ首長国連邦の中近東研修センター



「チームHINO」の一体感を醸成し、持続可能な成長を目指す



日野の強みはチーム力です。世界中のチームHINOがひとつになって「HINO」ブランドの価値を高め、次の世代に引き継いでいくことで、持続可能な成長を目指しています。

トラック・バスを開発する人、製造する人、販売する人、トータルサポートを提供する人が一体となり連携することで、お客様や社会の期待を上回る商品・サービスを提供し続けるとともに、「世界一過酷なラリー」といわれるダカールラリーに参戦し、チャレンジスピリットと技術力を磨いています。また、ラグビーや卓球を通じて地域社会に貢献し、チームHINOの一体感の醸成と企業活動の活性化を図っています。



世界大会

販売部門の海外事業体やパートナーが参加する「日野世界大会(Hino World Conference)」を開催。将来ビジョンの共有を図り、情報交換を行っています。



ダカールラリーへの参戦

1991年に日本のトラックメーカーとして初めてダカールラリーに参戦。初参戦以来連続完走を果たし、世界中のお客様やモータースポーツファンと感動を分かち合っています。



ラグビー部「日野レッドドルフィンズ」

1950年の創部以来、当社のフラッグシップスポーツクラブとして活動。より地域に密着し、地域の方々に愛されるラグビー部を目指しています。



卓球部「日野キングフィッシャーズ」

日本リーグに加盟する強化指定クラブ。全日本実業団選手権など全国レベルの大会で活躍。卓球を通じて地域社会に貢献するとともに、観る人すべてに感動や勇気を与えられるチームを目指しています。

「ものづくり」を通じて、自己の成長を図る

日野は各職場単位で技能訓練、集合研修、日々の実作業による人財育成を行うとともに、全社・グループを横断した認定制度やイベントを実施。「ものづくり」を通じて自己の成長が実感できるしくみを構築しています。



社内技能等級認定制度・全社技能交流会

各職場で必要な技能の習得を浸透させるため、社内技能等級認定制度を導入。習得した技能を競い合う全社技能交流会を毎年開催しています。



日野工業高等学園

日野が運営する企業内訓練校。卒業後は本人の適性を考慮したうえで各部門に正式配属されます。



サービスマスターコース

次世代の国内販売会社を担う中核人財育成プログラム。約1年間の研修で、サービスエンジニアに求められる幅広いスキルを学びます。



全国販売会社サービス技術コンクール

全国の販売会社の技術力向上を目的に毎年開催しています。

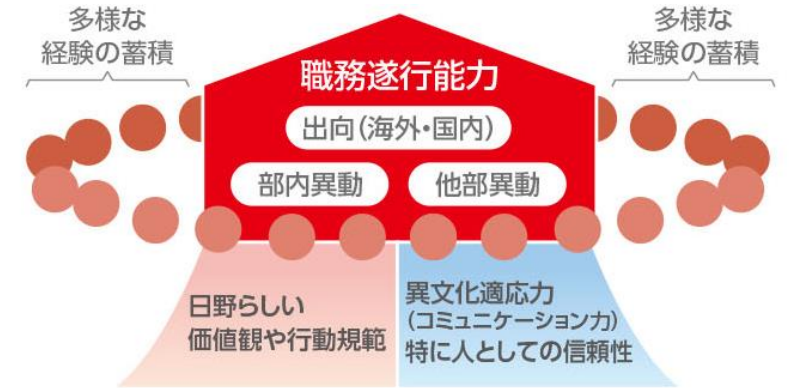


スタッフ小集団活動/
MAST*活動パネル展示会

チーム力を高める小集団活動と職場マネジメントの質の向上を目指すMAST活動の事例を展示することで、活力ある組織づくりに役立てています。

*Management quality Advancement System developed by Toyota group=トヨタグループによる職場マネジメント改善システム

世界中のお客様に商品・サービスを提供していくために、国を越えた相互交流を活発化し、グローバルに活躍できる人財を育成しています。また、「教え・教えられる職場環境」をつくることで、優秀な人財の持つ知識・ノウハウを幅広い層に広げ、組織的な能力向上のスピードアップを図っています。



階層別研修

それぞれの階層に期待される役割や能力を、集合研修や職場での実践を通じて習得していきます。



オール日野TQM*/
グローバル日野QC**大会

社員のほか社外や海外からも大会に参加して、改善活動の成果を発表し合い、日野グループ全体で役立てています。

*Total Quality Management=総合的品質管理

**Quality Control=品質管理



ICT*/海外トレーニー制度

グループ全体でグローバルに活躍できる人財を育成するため、海外から社員を招き入れる一方、日本から若手社員を海外へ派遣しています。

*Intra Company Transfer=企業内転勤

私たちが提供するトラック・バスは、部品や素材をつくる段階から車両製造、お客様による使用、そして廃棄までの製品ライフサイクル全般で環境に負荷を与えています。この環境負荷を低減し、豊かで住みよい世界と未来を次の世代につなぐため、日野グループのチャレンジ目標として2017年に「日野環境チャレンジ2050」を策定。2021年にはこのチャレンジにおける2030年までの中間マイルストーンも設定し、取り組みを一層加速しています。特にカーボンニュートラルの実現に向けて、ライフサイクル全体におけるCO₂を徹底的に削減すべく、各国政府・関連業界と連携し、お客様・社会起点の姿勢であらゆる方策を追求していきます。



日野グループが成し遂げるべき
6つのチャレンジ

日野は、「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という会社の使命を果たすために事業活動を推進することが、そのまま社会貢献活動につながります。一方で、事業活動以外の社会貢献として、世界中のグループ会社とともに、輸送や移動を通じた災害復興への協力や車両の寄贈、義援金の寄付、文化的な地域行事への参加および支援、人づくりとして地元に着した教育への支援などを行っています。



水不足に悩むタイ北東部へ給水車を寄贈



マレーシアにて教育支援として訓練用車両とエンジンを寄贈



各拠点の周辺にて清掃活動を実施



管理職の有志による小学校への出前授業



日野ラグビー部による子供たちへのラグビー教室

日野自動車について



会社名	日野自動車株式会社
本社所在地	東京都日野市日野台3丁目1番地1
創業	1910年(明治43年)8月1日
設立	1942年(昭和17年)5月1日
資本金	72,717百万円
代表者	代表取締役社長 CEO サティヤカーム・アーリヤ
従業員数	32,339人*
製品	トラック・バス、各種エンジン、補給部品等
売上高	1,565,332百万円**
営業利益	82,063百万円**
経常利益	70,639百万円**
当期純利益	84,401百万円**

*2026年3月31日時点(連結) **2026年3月期(連結)



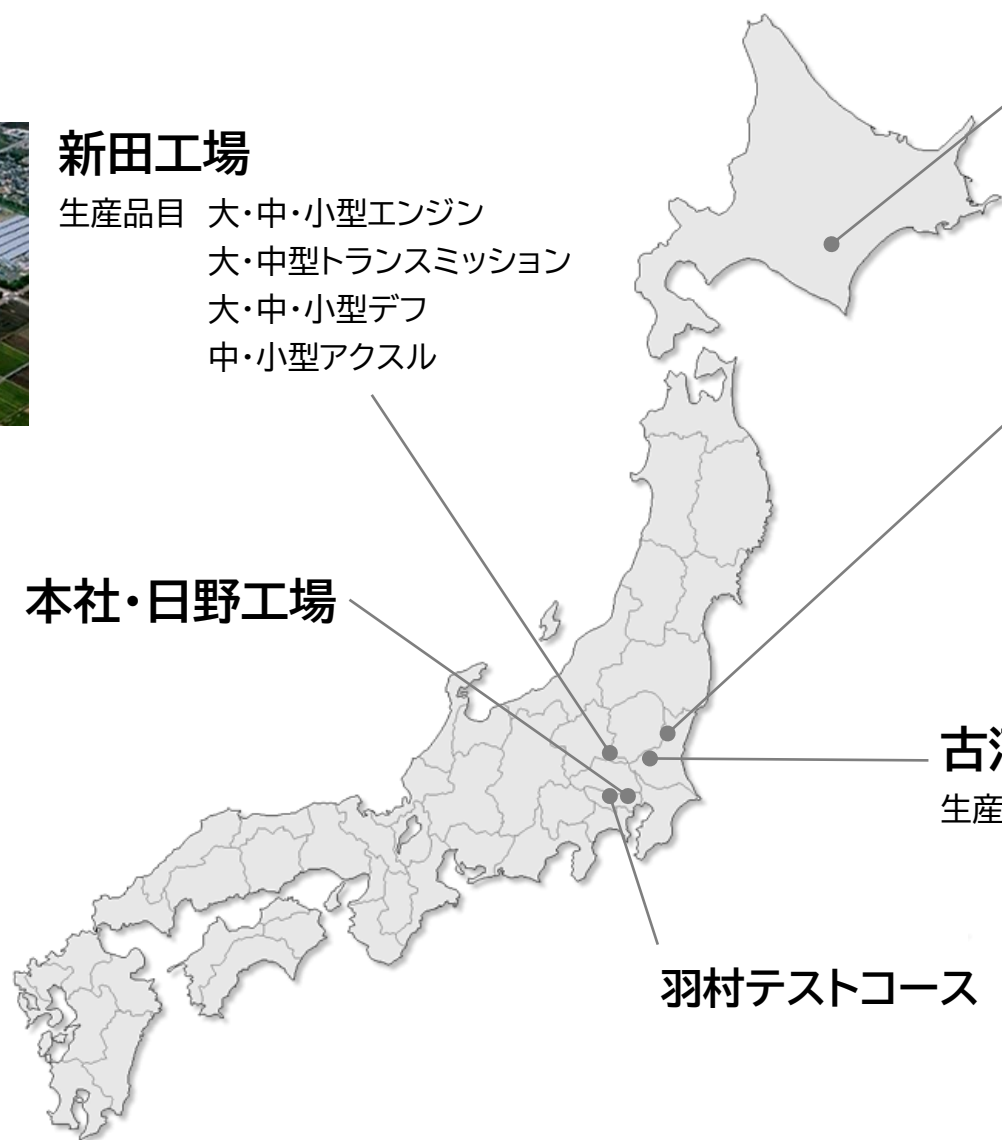
新田工場

生産品目 大・中・小型エンジン
大・中型トランスミッション
大・中・小型デフ
中・小型アクスル



※日野工場の敷地一部譲渡前に撮影

本社・日野工場



北海道芽室テストコース

茨城テストコース

古河工場

生産品目 大中型トラック
大型アクスル



羽村テストコース

羽村工場は2026年4月1日付でトヨタ自動車株式会社に移管され、トヨタ自動車羽村株式会社として事業を開始しました。





日野デュトロ

小型トラック



日野レンジャー

中型トラック



日野プロフィア

大型トラック



日野ポンチョ

小型路線バス



日野メルファ

中型観光バス



日野セレガ

大型観光バス

沿革(1910~1999)

会社の 出来事

1910

東京瓦斯工業(株)
設立

1942

日野重工業(株)
として分社・設立

1959

日野自動車工業(株)
と改称

1962

タイに海外初の
販売会社を設立

1964

初の海外製造
会社をタイに設立

1991

ダカールラリーに
初参戦し完走

1994

新シンボル
マーク制定



1999

日野自動車工業(株)と
日野自動車販売(株)が合併し、
日野自動車(株)と改称

商品に関する 出来事

1918

国内初の純国産
トラックの生産開始



1950

単車型の
大型トラック(TH)・
バスを発売

1953

「ルノー」との技術提携
乗用車生産を開始



1991

世界初のディーゼル-電気
ハイブリッドバスを発売



1999

トヨタ自動車(株)との共同開発による
新小型トラック「日野デュトロ」を製造・発売



沿革(2000～2021)



2001

第三者割当増資により
「トヨタ自動車株式会社」の
子会社化

2007

海外販売台数が
国内販売台数を
初めて上回る

2009

トラック・バス
生産台数、累計
300万台達成

2012

古河工場(茨城県)の
ノックダウン工場稼働開始

2013

ハイブリッドトラック・バスの
販売台数、累計1万台突破

2017

古河工場の
本格稼働開始



2018

新しい物流のかたちを提案する
「NEXT Logistics Japan株式会社」を設立



2020

インドネシアでの生産
台数、累計50万台突破

2004



北米専用車「HINO600シリーズ」
を発売

2012

「日野ポンチョEV」
営業運航開始



2015

モジュール化新商品を
インドネシア・タイに導入



2017

「日野プロフィア」が
グッドデザイン賞を受賞

2018

世界初EDSS(ドライバー異常時対応システム:
Emergency Driving Stop System)搭載の
大型観光バス「日野セレガ」を発売

2019

国産初の連節バス
「日野ブルーリボンハイブリッド 連節バス」を発売



大型ハイブリッドトラック
「日野プロフィアハイブリッド」を発売



2022

エンジンの排出ガスおよび
燃費に関する認証申請における
不正行為を公表

2023

「三菱ふそうトラック・バス
株式会社」との経営統合に
関する基本合意書を締結

2025

エンジン認証問題に
関する米国当局との和解

ダイムラートラック、三菱ふそう、日野、トヨタ、
三菱ふそうと日野の統合に関する最終合意を締結

2026

統合会社アーチオン設立

ARCHION

2022

小型BEVトラック
「日野デュトロ Z EV」を発売



2023

自家用有償旅客運送の
運行管理受託サービスを提供開始

自家用有償トータルサポート



みるとつながる、
変えていく。



2024

ごみ収集業界向け
ソリューションサービス
「GOMIRUTO」を提供開始

品質マネジメントシステムに関する国際規格
「ISO9001」の認証取得

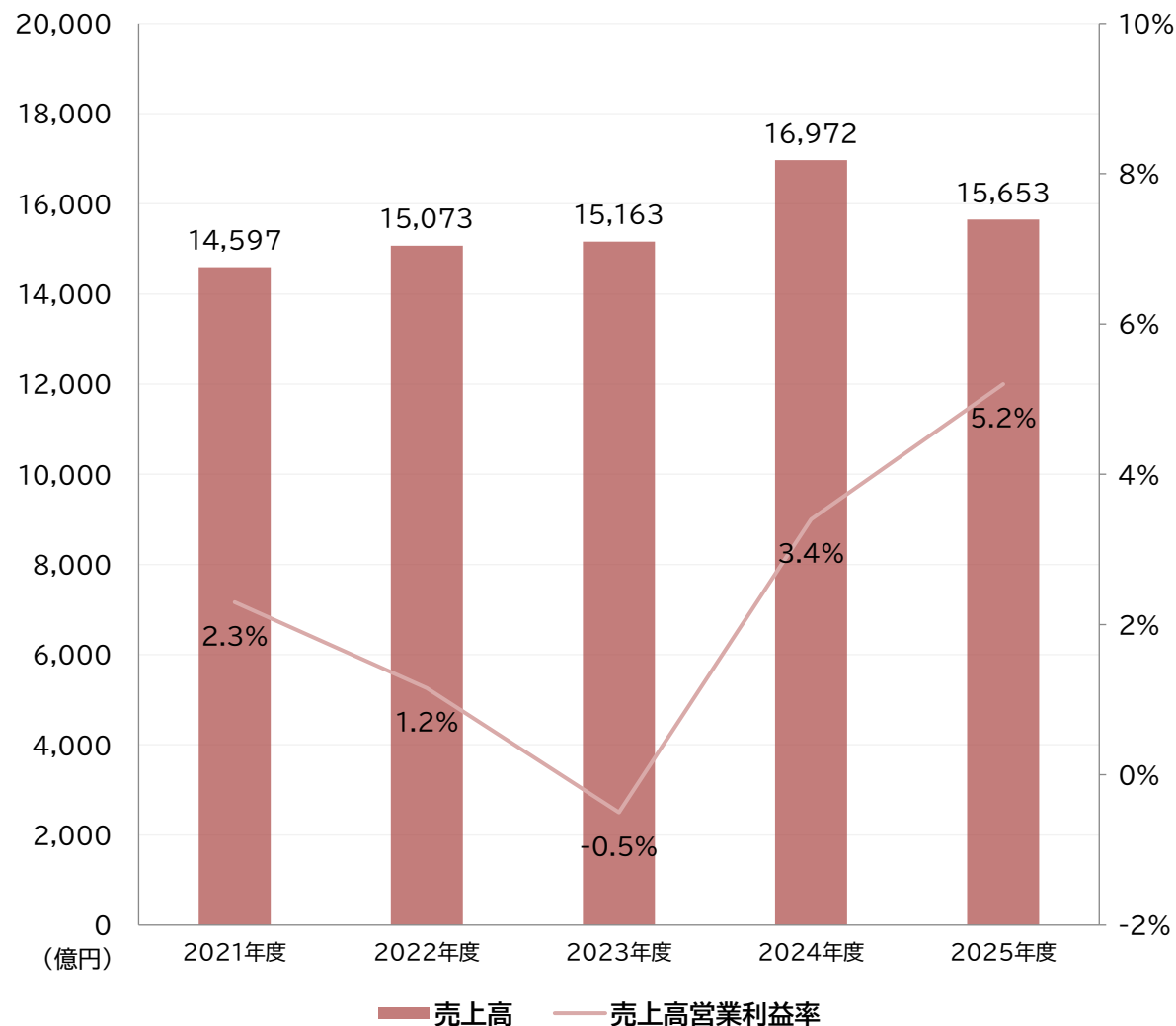
BEVフルフラット路線バス
「日野ブルーリボン Z EV」を発売

2025

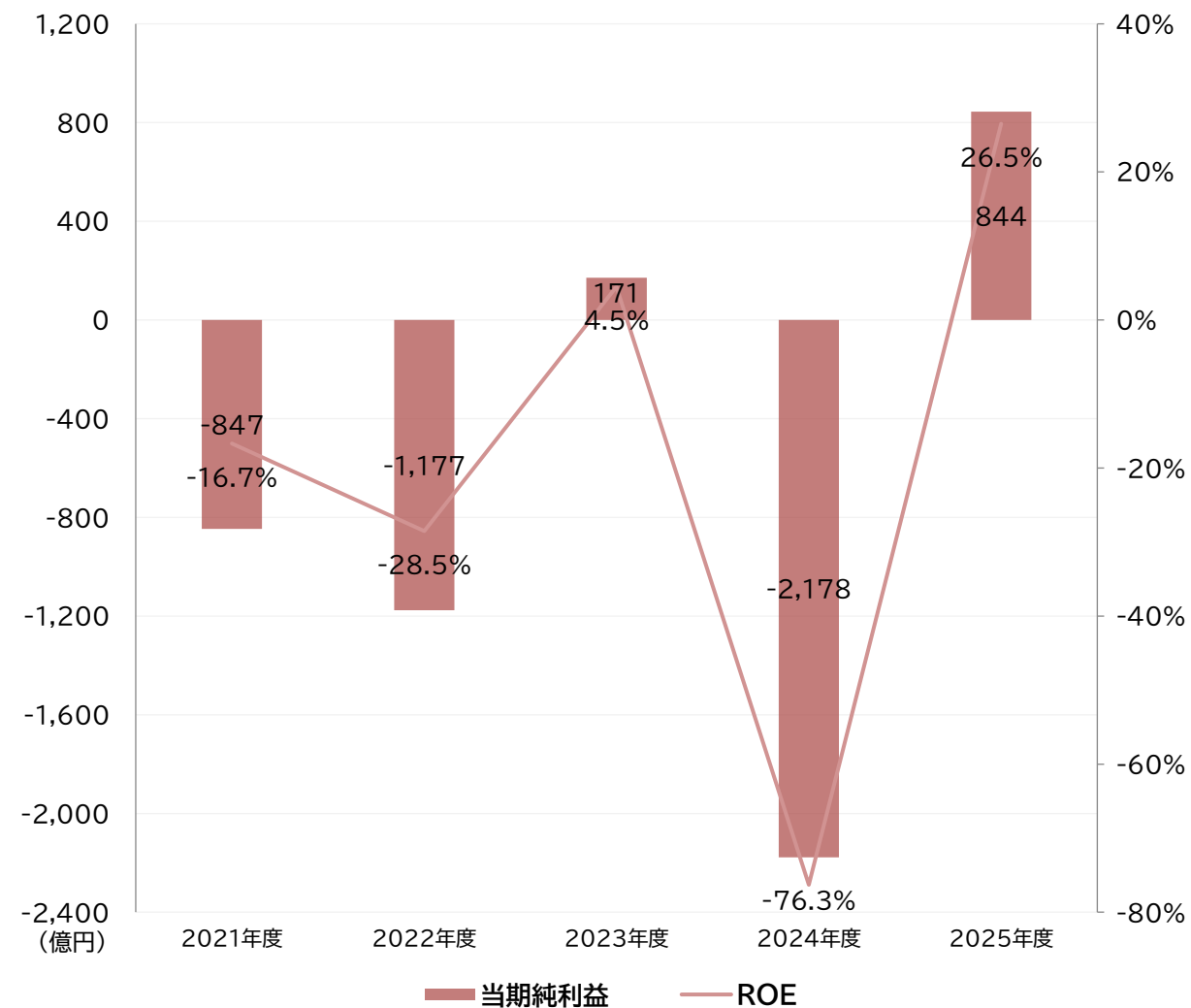
燃料電池大型トラック
「日野プロフィア Z FCV」を発売



● 売上高・営業利益

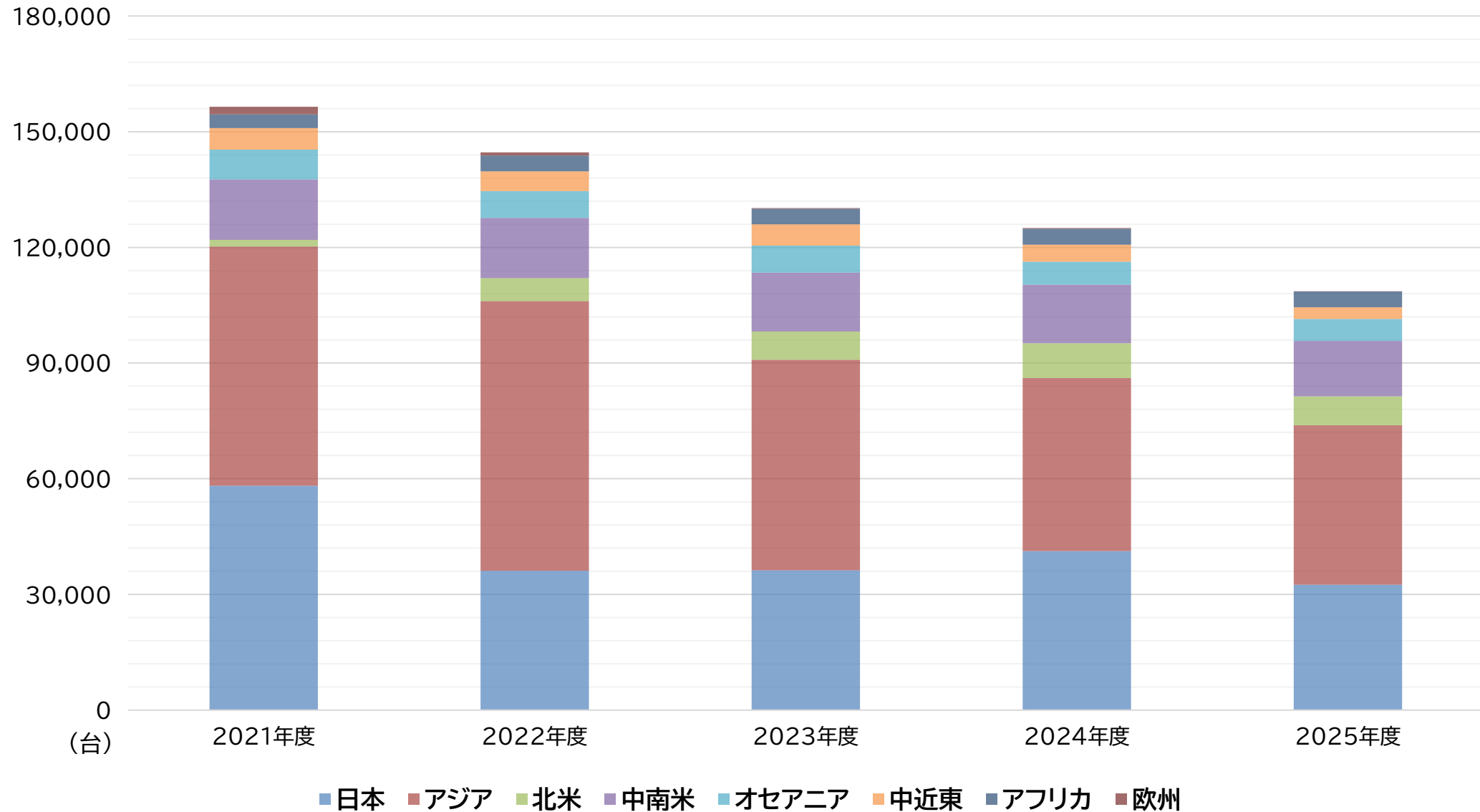


● 当期純利益・ROE



(注) 2021年度から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用

HINOブランド車 グローバル販売台数





人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する



コンプライアンスを徹底し、
誠実に行動します



安全・環境にこだわり、
未来の社会を支えます
品質・プロフェッショナルにこだわり、
お客様の事業を支えます



互いを尊重し、
安全安心な職場をつくれます